

海津市まちづくり委員会「第5回ふるさと定住促進検討分科会」会議録

開催年月日 平成21年11月27日(金)
開催場所 海津総合福祉会館ひまわり1階「研修室1」
分科会委員定数 14名
開 会 午前9時30分
閉 会 午前11時30分
出席者 ○分科会委員
岐阜経済大学経済学部教授 池 永 輝 之
公募市民 村上 碩 也
公募市民 古 川 義 弘
公募市民 本 多 高 洲
公募市民 藤 田 繁 己
公募市民 堀 田 義 郎
公募市民 坂 本 由 貴
公募市民 伊 藤 祥 子
公募市民 加々本 紘 一
公募市民 柴 田 夕 子
女性人材リスト登録者 安 部 晶 子
高須生活学校代表 加 藤 佳 余 子
海津市自治連合会代表 諏 訪 薫

○事務局 企画政策課 課長 木 村 元 康
" 係長 後 藤 政 樹
" 主任 毛 利 卓 司

欠 席 者 女性人材リスト登録者 石 川 晴 代

会 議 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議事項
 - ① 人口流出要因と対策について <資料1>
 - ② 今後の進行等について <資料2>
 - ③ 分科会の開催時間等について
4. 事務連絡
5. 閉会

事務局	<p>ただいまから海津市まちづくり委員会「ふるさと定住促進検討分科会」第5回目の会議を開催させていただきます。 はじめに藤田会長よりあいさつをお願いします。</p>
会 長	<p>（あいさつ）</p>
事務局	<p>それでは次第にしたがって進めさせていただきます。 協議事項の①人口流出要因と対策について、前回の分科会において若年層の人口流出の要因と対策についてご意見をいただきました。資料1はそれを整理させていただいたものです。内容をご覧ください、間違いなどありましたらご指摘いただきたいと思います。 また、前回「私が考える定住対策」ということで、お一人ずつご意見をいただきましたので、これから前回ご欠席された委員さんに「私が考える定住対策」を発表していただきたいと思います。</p>
A 委員	<p>人口減少という問題について市民はあまり関心がないと思います。人口減少によって、海津市にどういう問題が起こってくるのか、そういったことを市報などでPRし、問題を共有していく必要があると思います。 4万人都市でどういった対策ができるのか、はっきりと示さないといけないと思います。海津市は農業地帯ですので、土地を収用するにしても、大規模な企業を誘致するにしても土地を持っているのは農家ですので、農家の協力が必要となってくることから、啓発や政策の提示は必要であると思います。</p>
B 委員	<p>私もPRすることが必要だと思います。人口が減ったらどういうデメリットがあるか、しかし不安を広げてはいけないので、「でも大丈夫」といえる対策も併せてPRすることが必要かと思います。人口が増えることでのメリットなども伝えることが良いと思います。</p>
C 委員	<p>市報の「戸籍の窓」を見ていますが、10月で世帯数が22件減っています。これが空き家になるものなのか、ただ世帯が減っているものなのか、これを行政に把握してもらいたいと思います。今まで同居ができないとか住宅の問題が挙がっていますが、私は子育ての問題にしても住居の問題にしても、近居と同居ということは、すごく良いことだと思っています。空き家とか県営住宅、市営住宅が安く利用できるのであれば、名古屋だろうと大垣であろうと、若い方はマイカーを持っておりますので、もっと来るのではないかと思います。空いている部屋を行政の手助けにより、例えば5万円の家賃を2万円くらいにして、どんどん住んでもらえるように手を打つのも一つかと思っています。</p>
D 委員	<p>海津市が名古屋や桑名、大垣など、他の市に比べて劣っていると思います。それをクリアすれば人は減らないと思います。私の自治会においても、若い方はどんどん出て行ってしまいうし、いくら住宅を供給してもそれを止めることはできません。 ある程度、人口が減ることはやむを得ない、そこに住む人が快適で過ごせるような対策を考えたほうが良いと思います。 人口が減っていることに対しての住民の意識は低いと思うし、切迫感がないと思うので、危機感も住民に知らせることも必要かと思います。 今住んでいる方が、ここに住んでいて良かったと思えるような方向に切り替えていくほうが良いと思います。</p>

事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>資料 1、または只今のご意見も含めまして、お気付きの点や質問等あればお願いします。</p>
D 委員	<p>資料 1 に空き家の把握をしていないとありますが、防災・防犯対策で空き家状況を消防署で調査して把握していると思いますので確認してみてください。</p>
E 委員	<p>自治会にも空き家の調査依頼がありましたので把握できていると思います。</p>
事務局	<p>防災関係で把握しているのご意見をいただきましたが、空き家に「住めるか、住めないか」については把握しておりませんのでご理解いただければと思います。</p>
A 委員	<p>私の自治会では、今年から 3 世代交流の行事を実行委員会形式により行いました。非常にみんなから関心をいただいて、今までの 5~6 倍の人出がありました。そういう良いところを、子どもが出て行っても、戻ってくるような雰囲気作りをしないといけないと思います。出て行った人に戻ってきてもらうことも人口減の対策になると思います。魅力あるとか大げさなことではなく小さい規模で良いからやってみることが大切だと思います。市も一方的に自治会に押し付けるような事業ではなく、モデル（地区）を絞って呼びかけるなどしてはどうでしょうか。</p>
F 委員	<p>子育て支援センター（資料 4）について、毎日開催しているところもあれば、休みが多いところもありますが、働きながら子育てをする親にとって本当の支援になっているのか疑問です。</p>
事務局	<p>子育て支援センターは、乳幼児をもつ母親が子どもと一緒に参加し、交流や相談等を行うことを目的としております。子どもを預けるために開設しているわけではないことをご理解ください。</p>
G 委員	<p>子育て支援センターは、どこを利用されても良いのですが、みなさんご存じない。情報がはっきり伝わってないところにも問題があると思います。</p>
H 委員	<p>子育て支援センターに、家庭・母子相談員が来ているのですが、誰一人として相談しないのが現状です。また、子育て支援というのは、お母さんを支援することです。行事としては子どもに対することばかりですが、本来はお母さんをサポートすることが大切ですから内容を検討することが必要です。</p>
A 委員	<p>前回の分科会で、子育てサポーターが活躍する場がないと言われておりますが、どういう意味でしょうか。</p>
H 委員	<p>ボランティアという目に見えない出費（ガソリン代など）があります。自分たちが資格をとった、研修を修了したといっても、出費があると続かないです。できれば有償でやって欲しいという思いもあります。</p>
E 委員	<p>私の自治会ですが、若い方が 3 人帰って見えまして。同居ではなく同じ敷地内に家を建てて住んでみえるのですが、こうしたことは、ふるさとを大事にする気持ちや、親を大事にするというか、それでお孫さんもおじいさん・おばあさんに育ててもらい、良い意味での</p>

	<p>家族のあり方なのではないかと思います。</p>
A 委員	<p>資料 6 について説明してもらえませんか。</p>
事務局	<p>これは東洋経済が毎年都市データを集計しているもので、全国 784 の市の住みやすさ等のランキングが紹介されています。海津市は住みよさは 499 位ですが、住民の感覚的にはどうかという思いもありますが、ちなみに本巢市が全国 1 位になっております。</p> <p>ここで少し休憩を取らせていただきたいと思います。</p> <p>(休憩)</p> <p>それでは会議を再開させていただきます。</p> <p>今後の進行についてですが、以前、人口動態調査を資料として出させていただきました。統計上のデータ(人口動態調査)では、転出理由 1 位「結婚・離婚・縁組」、2 位「職業上」、3 位「住宅事情」でした。一方、グループワークでは「職業上」問題があるといった意見が多数を占めたほか「子育て」「交通の利便」などが上がりましたが、結婚や住まいの問題はあまり出てきませんでした。こうした意見の相違を考えていただく機会を持ちたいと思います。</p> <p>次に意見交換会・地域事例紹介についてですが、一部参考資料をお出しさせていただきましたが、資料だけでは不足の場合は意見交換の機会を作ることも可能です。</p> <p>次に課題の収束ということなのですが、そろそろ課題をまとめていかなければいけないと考えております。年度内には概ねの方向を出して行きたいと思います。</p> <p>最後に、分科会としての問題点が「若年層の市外流出」であることを再認識していただき、論理的に、自分なりの根拠をもって考えていただくようお願いいたします。というのは、今までの議論の中での要因や対策が、現在の日常生活での不満とも取れやすい話が出ているように感じられました。「なぜ流出しているか、だからこういった対策が必要だ」というようなスタンスで検討していただけたらと思います。</p>
E 委員	<p>統計データの転出者数は、男女別でカウントできますか。</p>
事務局	<p>男女別で出ております。ちなみに昨年のデータで「結婚・離婚・縁組」では 20～29 歳、30～39 歳が転出者の 9 割近くを閉めており、女性は 20～29 歳で 70 人強、30～39 歳で 30 人強となっています。男性は 20～29 歳、30～39 歳いずれも 30 人強となっています。</p>
C 委員	<p>先ほど、自治会での 3 世代参加のイベントを実施されて成功したということはとても良いことだと思います。では海津市の魅力としてアピールできるもの、自分たちが残したい場所、できることなら 3 世代を巻き込んで大きなものにしたいと思うような場所をみなさんご存知でしょうか。</p>
E 委員	<p>私は海津市で大きくやるというのは賛成しません。まず自分の自治会で何ができるかということを考えていきたいと思っています。</p>
C 委員	<p>小さく同じようなイベントが各地域でたくさんあるようなら、もし 1 つのイベントとして集めることができたらどうだろうと思ってお尋ねしました。というのは、いびがわマラソンが全国 2 番目を誇るべきものになった、それを地域をあげて長期的にやっていたとしたならば、海津市でも素晴らしいものが発掘できるのではないかと思います。地域でしか育</p>

	<p>てられないものは、それはそれで大切にしていきたいと思いますが、海津市として何かできるものがあるかと思い、皆さんにお聞きしました。</p>
E 委員	<p>今、トライアスロンはどうなっていますか。</p>
D 委員	<p>実施されていますが、市民はほとんど参加されていないと思いますが。</p>
F 委員	<p>イベントの話題が出ておりますが、人口流出の話につながりますか。</p>
D 委員	<p>長期的に考えて、将来帰ってくるができる（誇り・愛着）機運づくりだと思います。</p>
F 委員	<p>暮らしというのは毎日のことですから、いかに継続的に暮らしやすい社会をつくるか、そこに論点を向けるべきだと思います。</p>
池永教授	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元に3人の若い方が帰って来たと話がありましたが、どういう理由で帰ってきたのかお聞きしたかった。ご家族が病気をされたとか、職場の関係とか事情はわかりませんが、それが今後私たちが考えていくヒントになるのではないかと思います。 ・ 3世代交流の話がありましたが、各地域（自治会での）の取り組みを紹介していただけると良いと思います。 ・ 幼い頃から地域への愛着を形成することが定着化、あるいは将来的には帰ってくることに繋がってくるのではないのでしょうか。海津市が誇るべきことは何なのか、そういうことを拾い出す作業をしてみることで、市が応援することもあるだろうし、色々な取り組みも出てくるだろうし、対策が出てくるかもしれません。地域資源の発掘をしていただくことも検討が進んでいくことになるのではないかと思います。 ・ 人口減について市民の関心がないのではないかと話がありましたが、人口減が海津市の将来にどんな影響が出てくるのか、そういうことを考えることも、市の広報の中でも紹介して、市民の関心を引き付ける、呼び覚ますようなこともしなければいけないと思います。 ・ 空き家の状況調査は消防署でやっているとの話でしたが、我々は海津に住んでいながら、海津の実態というか状況というか、中々わかりにくい、わかっていないということもありますので掘り下げてみる必要もあると思います。 ・ トライアスロンの話が出ましたが、全国的なイベント、ツーリズムというか、海津のよさが全国的に知られるという意味では、そうしたイベントをどうやって活性化することが可能なのかということを考えれば海津のイメージアップ、海津が知られるということにつながっていくと思います。「トライアスロンをやっている海津が出身地だよ」と語られるようになれば、また別の効果も出てくると思います。 ・ これから考えていただきたいことに、ぜひ地域資源の掘り起こしをお願いしたいと思います。地域に愛着をもって、今は結婚で出て行ったけど機会があれば帰りたい、就職で出て行ったけどいずれは帰りたい、ということにつながるものを発掘できたらと思います。今までは海津市の否定的な側面が議論されていましたが視点を変えて、こんな良さがある、その良さをさらに広げることが流出抑止につながっていくのではないかと思います。
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>今後の進行については先ほどの案や、池永先生からもご助言がありましたことなど会長さんと池永先生と相談させていただきながら進めさせていただきたいと思います。</p>

D 委員	この分科会は私たちの勉強会の場ではいけないと思います。勉強会ではたくさんの時間が必要になってしまうので、委員それぞれが調べるなどして、ある程度知識をもって会議に臨む必要があると思います。
A 委員	少々強引でもテーマを絞ってやる必要があると思います。結果的には行政の予算的なこともあるので、その辺も詰めていかないと提案できないと思います。2つくらいにテーマを絞って、委員もそれぞれ意見をもって会議に出てこないで、時間がかかるだけで、課題もたくさんあるので、「これだけは実現したい」という思いをもって進めていただきたいと思います。
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。</p> <p>皆さんのご意見を尊重するべきところはさせていただいて、納得のできる対策が検討されればと思います。少々強引にというご意見もありましたので今後は、絞込み作業も速やかにできるよう考えてまいります。</p> <p>それでは次に分科会の開催時間等について、以前、二人の委員から「午前中に開催していただけないか」と申し出があり、会長と先生に確認し、現在午前中に会議を行っています。前回、その前も欠席者が多数あり、会議時間の調整させていただきたいと思います。案として、午前・午後のうち、参加しやすい時間帯の多数決をとらせていただいて、多いほうの時間帯をメインとし、3回に1回は、少数の希望時間に設定してはどうかと思いますが、ご意見が特になければ、現行の時間で進めさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
B 委員	どちらかというとな夜間の方が出やすいです。
事務局	<p>夜間開催（19:00～）に関しては、正直なところ難しいので、できることなら午前・午後開催の方向でお願いしたいと思いますが、午前・午後問わないという方、挙手願います。</p> <p>（挙手多数）</p> <p>では、現行の午前をメインに進めさせていただきます。ご理解お願いいたします。</p> <p>それでは、大変長時間にわたりまして、ご協議をいただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして海津市まちづくり委員会「第5回ふるさと定住促進検討分科会」を終了いたします。</p>